

Title	福澤百助藏書に就いて 中津藩文書に見えた「學問のすすめ」初編の寫本に就いて
Sub Title	
Author	富田, 正文(Tomita, Masafumi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1953
Jtitle	史学 Vol.26, No.3/4 (1953. 6) ,p.88(234)- 88(234)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19530600-0088

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

見理解し難いところである。私の察する所では斯うではなかつたかと思ふ。慶應元年の中津藩の當路者に對する上書も慶應二年の徳川幕府の當路者に對する上書も共に上書の立場に共通のものがある。福澤は幕臣として佐幕の立場をとつて、京師の所謂、勤王の志士に對しては浮浪の徒と呼んでゐる。慶應元年二年の頃は福澤は佐幕の立場から徳川幕府の強化策を提案し、同じく徳川譜代の中津藩の富國強兵策を主張してゐる。然かも、明治初年になつても、明治政府の召命には遂に應せず、民間に獨立して生涯を終つてゐる。斯ういふ福澤が明治三十年頃、「福翁自傳」を書いたその時は世に謂ふ明治の聖代であつて、維新のとき政治に働いた人達は、働いたときの心事はどうあらうとも、兎も角、功績書を自分で作るか、或は人に作つて貰ふかして爵位勲等を我れ先きに受けて問もないときである。福澤は明治三十年頃の時勢に憚るところがあつて、幕末・明治初年の心事については、有りのまゝを語らず、筆を多少曲げたものではなからうか。これは私の推量である。

福澤百助藏書に就て

福澤百助の舊藏書が現在大分縣白杵圖書館に所藏せられてゐることは「福澤諭吉傳」第一卷三二頁に記され、その書目八十冊が掲げられてあるが、昭和二十八年四月末に白杵圖書館を訪問して實見したときには、傳記所掲の書目に擧げられてゐないものが更に四部十四冊見られた。いづれも福澤の藏書印が押捺してある。即ち左の如し。

刊謬正俗 一冊(刊本)

茆廊偶筆 一冊(寫本)

江邨銷夏錄 六冊(刊本)

古文觀止 六冊(刊本)

なほ、同圖書館では「讀禮通考」三十二冊の刊本をも、福澤藏書の中に數へてゐるが、この書は福澤の藏書印もなく、確實な證據は見當らぬ。疑を存しておく。(富田正文)

中津藩文書に見えた「學問のすすめ」初編の寫本に就て

舊中津藩文書(中津市立圖書館所藏)の「見聞雜記」と題する寫本綴の中に、無標題にて「學問のすすめ」初編の寫本があるが、その末尾の文章が、愛知縣僞版の「學問のさとし」と全く同一で、最後に「辛未十二月 元中津縣」と記してある。按ずるに、この頃諸方の府縣で同一の僞版を作つたものであらう。(富田正文)